

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (著書) 「掛けられない絵」としての女性の欲望―「ミシガンの北で」と『われらの時代に』―	単著	2010年3月	『英文学の可能性―玉井暉教授退職記念論文集』 英宝社	女性を描けなかった作家といわれるヘミングウェイが、初期短編集の中では積極的に描こうとした女性主人公の像から、男性作家が女性を視点人物として描く困難を論じた。 (総ページ数:10頁)
2 (著書) 『河を渡って木立の中へ』の肖像画―ヘミングウェイと異界の入口としての絵画―	単著	2006年11月	『異界を創造する―英米文学におけるジャンルの変奏』 英宝社	リアリティを追求するヘミングウェイ作品の中で絵画というモチーフが、非日常的な異界を作品世界に取り込む試みの拠点となっていることを、セザンヌなどの絵画作品と比較しながら論じた。 (総ページ数:19頁)
3 (学術論文) ブレット・アシュリーへの視線―語り手、作者、批評から	単著	2009年6月	『ヘミングウェイ研究』 10号 日本ヘミングウェイ協会	『日はまた昇る』の女性主人公がどのように描かれ、どのように描かれたかをジェンダーの観点から検証し、この作品を英文科以外の学生に教える際の授業案を提案した。 (総ページ数:11頁)